

1 学校教育目標						
燦(さん)として輝き、熱誠(ねっせい)こめて社会の力となる人材の育成 ～他者とのつながりの中で磨く、総合的な人間力～ 総合的な人間力:至誠一貫(誠意・まごころ・夢・理想・志・チャレンジ精神・起業家精神・忍耐力・粘り強さ 等) 自主自立(思考力・判断力・表現力・行動力・責任感・規範意識・自己肯定感・地域肯定感 等) 友愛協働(親しみの情・福祉の心・思いやり・優しさ・協働性・協調性・連帯感・信頼感 等)						
2 現状分析						
当面取り組むべき課題として、次のことが挙げられる。 教 務:介護福祉士国家試験の合格に向けて生徒が主体的に学ぶ態度の醸成。学ぶ目的を意識させた授業展開、ICT機器を活用した「わかる授業」の更なる推進 進路指導:介護福祉士としての就職や上級学校(大学福祉系学部等)進学などの高い進路意識の持続。スキルアップのための個別指導の強化と進路支援の充実 生徒指導:礼節や規則を遵守し、社会の一員として自覚を持った行動ができるようになるための積極的な生徒指導の実践。心身の健康や安全な生活を維持する能力の向上 いじめ防止:生徒同士の円滑な人間関係の構築。いじめの未然防止のための情報共有と早期発見、早期解決に向けた組織的な取組の充実 福 祉:介護福祉施設との連携を深めたきめ細やかな介護実習指導。確かな知識・技術を身に付けるための専門的な教育活動の充実 業務改善:学習指導、進路指導等に関する協働体制の確立。教職員の負担軽減、勤務時間の縮減を意識した働き方改革の周知徹底						
3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題						
○重点目標 (1)深い学びを促し、確かな学力を育成する学校づくり (2)他者とのつながりを深め、健やかな心と体を育成する学校づくり (3)地域と連携し、介護現場のリーダーとなる人材を育成する学校づくり ○生徒チャレンジ目標 SHAKE ～今まで築いたものを継承して、新しいステージへ～						
4 自己評価					学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準(評価基準の達成度)	重点目標の達成状況の診断・分析	意見・要望等	評価
教 務	・生徒が明確な目標やめあてをもって主体的に学ぶことのできる授業づくり ・「わかる授業」の学習指導の工夫と充実	・実習を中心として、科目を横断してアクティブ・ラーニングなどのグループ活動や、主体的・対話的な活動を積極的に取り入れる。 ・介護・福祉の専門的な力を身に付けさせ、明確で適切な評価をする。 ・小テストなど種々の指標で生徒の定着の度合いを把握し、手当てする。	4: 授業評価アンケートで「目標やめあてを意識して授業に取り組む主体的に学ぶことができた」と思う生徒の割合が8割以上である。	授業評価アンケートにおいて、「主体的に学ぶことができた」と感じた生徒は96%であった。自主的・意欲的に取り組もうとする姿勢が高まり、特に1年次生の積極的な授業態度が育っている。「わかる授業」の工夫では、福祉教員全員が1時間の目標やめあてを明確にした授業づくりを実施した。また、各科目で実施した単元ごとの小テストは、生徒の主体的な学習姿勢の定着に結びついている。授業アンケートの「授業内容を理解することができたか」の肯定率は100%であった。 しかし、欠課のある生徒や実技系科目を苦手とする生徒には、補講や個別指導を強化し、学習保障の徹底を図る必要がある。自身の取り組みに不十分さを感じている生徒も少数だが存在するため、取り組み姿勢の主体性を明確・適正に評価し、生徒が得た知識・技術に自信が持てるようフィードバックしていく必要がある。	・1時間の目標を明確にしたのはとてもよい。 ・生徒のモチベーションの高さが、より高い学習意欲につながっている。 ・分かりやすい授業をされている。 ・アクティブ・ラーニングの成果が見られ、大変素晴らしい。 ・小テストや補講の実施など、スモールステップで、生徒の学習内容のつまづきに対応していることは評価できる。 ・専攻科なので、特に知識の習得には力を入れてほしい。 ・今後、中学校教諭にも授業を公開していただき学ばせてほしい。	A
			3: 学ぶことができた」と思う生徒の割合が6割以上である。			
			2: 学ぶことができた」と思う生徒の割合が4割以上である。			
			1: 学ぶことができた」と思う生徒の割合が4割未満である。			
進路指導	・生徒一人ひとりの希望に沿った進路指導の充実と希望進路の実現	・面談や個別指導を充実させ、生徒の進路希望を把握する。 ・介護福祉士国家試験模試や課外などを実施することで進路意識を高める。 ・進路情報提供の充実を図る。	4: 学校評価アンケートで「充実した面談や個別指導」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と思う生徒・保護者の割合が8割以上である。	学校評価アンケートにおいて、「充実した面談や個別指導」の項目の結果は保護者85%、生徒100%であった。1年次生について、引き続き進路希望調査を定期的実施することで、担任と情報共有しながら、具体的な進路先を選んでいるよう情報提供を行っていく。また、保護者からの評価を100%に向上させるために、学校内の進路指導活動状況について見える形での情報発信等を考えていく必要がある。 2年次は介護福祉士国家試験終了後、各就職先で専門職として働くことを意識した指導へ移行する。1年次生については1年後を見据えた国家試験準備を各教科担当と協力しながら始めていく。	・介護福祉士になることを目指している、生徒一人ひとりのニーズに沿った進路指導をしている。 ・国家試験全員合格、資格取得の目標を達成していることは素晴らしい。 ・保護者の方が生徒より評価が低い場合は、情報提供に工夫が必要。 ・今後も介護福祉士国家試験全員合格を目指して、個別指導にしっかり取り組んでほしい。	A
			3: 6割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。			
			2: 4割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。			
			1: 4割以下の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。			
生徒指導	・良好な人間関係を築き、社会規範を遵守する態度の育成	・介護実習や行事等の活動を通じて、他者を思いやる言動を促す。 ・立場や場面に応じた言葉遣いや礼節、規則を遵守する態度を養う。	4: 学校評価アンケートで「他者を尊重する言葉遣いや礼節、規則を遵守する態度」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と思う生徒・保護者の割合が8割以上である。	学校評価アンケートにおいて、生徒・保護者共に肯定的な評価が100%であった。授業や実習等の取組を通して介護の専門職としての意識や他者への思いやりについての理解は進んでいる。言葉遣いや礼節について、社会に出る事を想定し、それぞれが状況に合わせた対応が出来るようになってきた。 半面、クラスメイト間の会話や他者への言動について、まだ不十分な面もある。また、携帯電話の校内使用について学習への影響等も含めた指導を行う必要がある。来年度以降も、TPOを意識した言葉遣いや礼節について引き続き指導を行う。また、携帯電話の使用についても、引き続き専攻科生として目的のある学校生活を送る事が出来るよう指導する。	・地域カフェに参加した際、生徒の接遇が大変良かった。 ・言葉遣いや礼節は社会に出る際に重要なので、今の段階で確実に指導していただきたい。介護職場におけるリーダー育成につながる。 ・福祉において人間関係は必要不可欠である。 ・アンケート結果が生徒・保護者とも100%であり、どのような指導をされているのか興味がある。 ・言葉の暴力についても敏感になるよう、引き続き取り組んでほしい。	A
			3: 6割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。			
			2: 4割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。			
			1: 4割以下の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。			
生徒指導	・心身の健康や安全に関する自己管理能力の育成	・基本的な生活習慣を確立させ、健康で安全な生活を維持させていくマネジメント能力を育成する。 ・スクールカウンセラーとの連携や教育相談活動を通じて、心の健康の維持・向上させる。	4: 学校評価アンケートで「健康維持のマネジメント能力」教育相談活動」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と思う生徒・保護者の割合が8割以上である。	学校評価アンケートにおいて、「心身の健康や安全な生活を維持向上させていく健康維持のマネジメント能力を高めることができていく」項目で、生徒からの回答での肯定率が前回よりも下がった。また「教育相談活動」の質問項目についても同じように、生徒の評価が前回よりも下がった。 引き続き、心に不安をもつ生徒やコミュニケーションが苦手な生徒への継続した教育相談活動や、健康維持のマネジメント能力を高めるための教育活動に努める必要がある。	・生徒の評価が前回よりも「下がった」ことが気になる。 ・アンケート結果が前回より下がったとしても、8割以上が肯定的な回答なら問題はない。 ・引き続き、個別の対応にしっかりと取り組んでほしい。 ・多様な生徒がいるので、何らかの不安を抱えている生徒への対応をお願いしたい。	A
			3: 6割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。			
			2: 4割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。			
			1: 4割以下の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。			
いじめ防止	・いじめの未然防止、早期発見、早期解決のための組織的な取組の充実	・定期的なアンケートや面談を通じて、いじめを許さない毅然とした指導を様々な場面で取り組む。 ・いじめ対策委員会と教育相談委員会を定期的に実施し、生徒が抱える課題について教職員が情報を共有し、周知徹底する。	4: 学校評価アンケートで「学区はいじめの未然防止、早期発見および早期解決に組織的に取り組んでいる」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と思う生徒・保護者の割合が8割以上である。	学校評価アンケートにおいて、「ホームルームでの面談や支援が適切に行われており、いじめの未然防止、早期発見及び早期解決に学校は組織的に取り組んでいる」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と思う生徒の割合は86%、保護者の割合は100%であった。 今後も、いじめに対する取組を継続し、「いじめは許されない行為である」という大前提を引き続き発信し続けることが重要となる。来年度の取組として、各教科の授業内において引き続き「人権の尊重・個人の尊重」について個々の理解を深めるとともに、HRにおける面談や、SC来校日の面談等により生徒の実情の把握に努める。	・少人数とはいえども、いじめはあつてはならないので、日頃の観察、定期的な面談、アンケートの実施等により未然に防ぐことが重要。 ・いじめの背景には、いじめる側の生徒の心の間がある。その部分に寄り添い、自ら解決できる力を身に付けてもらえると、さらに良い。 ・将来的に高齢者の虐待につながるよう、人権の大切さについて理解を深めてほしい。	A
			3: 6割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。			
			2: 4割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。			
			1: 4割以下の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。			
福祉	・確かな知識・技術を身に付けられる専門的な教育活動の充実	・介護福祉施設との連携を深め、現場で必要とされる基本的な姿勢や実践的な知識・技術の習得を図る。 ・学校内の介護実習において、習熟度に応じた個別指導を行う。	4: 授業評価アンケートで「福祉の実践的な知識・技術が身に付いた」と思う生徒の割合が8割以上である。	授業評価アンケートにおいて、「福祉の実践的な知識・技術が身に付いた」の項目の肯定率が98%であり、個々に合わせた指導が行われており、福祉の実践的な知識や技術が身に付いてきている。介護実習においても施設指導者と連携し、介護現場での基本技術と利用者個別に対応する応用的技術の習得や見聞を広めることができ、実践的知識・技術の向上を果たした。 課題として、介護実習や実技科目で学んだことの振り返りをこまめに行い、実践と知識の統合と知識の長期的な定着をさらに深めていく必要がある。また、座学科目のうち、制度的内容や医学的知識の習得に対して苦手意識のある生徒も多いため、個別指導を徹底する必要がある。	・生徒数が少ないこともあるが、個別な教育指導がよくできている。 ・介護職は専門的な知識とそれに基づくスキル、さらに実習が伴うだけに人間性が大切である。 ・授業評価アンケートにおいて、肯定率100%を目指してほしい。 ・知識・技術ともにプロ意識を身に付けてもらえると、さらに良い。 ・施設との連携を今後ともしっかりと取り組んでほしい。	A
			3: 「福祉の実践的な知識・技術が身に付いた」と思う生徒の割合が6割以上である。			
			2: 「福祉の実践的な知識・技術が身に付いた」と思う生徒の割合が4割以上である。			
			1: 「福祉の実践的な知識・技術が身に付いた」と思う生徒の割合が4割未満である。			
業務改善	・分掌間の協働体制の強化と業務内容のオープン化・最終退校時間を意識した日常業務の遂行	・教職員の連携の強化、業務の共有により、負担感を軽減する。 ・日常業務を整理する等により、時間外作業時間の削減を図る。 ・調査期間中や長期休業中の行事や会議に配慮する。	4: 前年度と比べて業務改善が進んだと感じている教員の割合が8割以上である。	学校評価アンケートにおいて、6割の教員が業務改善が進んだと感じている。少人数組織のメリットを生かして教員同士が連携を図り、協働体制は強化された。その一方で、少人数であるがゆえに一人当たりの業務量は多く、時間外在校等時間の削減には至っていない。 原因は、スクラップアンドビルドが十分にできていないことにある。働き方改革に対する教員の意識は高いので、簡素化できること新たに取組むことをはっきりさせ、業務改善を行う必要がある。また、介護実習期間のノー残業ウィークを周知徹底し、時間外在校等時間の削減と負担感の軽減につなげたい。	・具体的に時間外在校等時間がどれくらいあるのかを知りたい。 ・ICTなどを利用して改善していくのも一つの方法である。 ・少人数組織の中で努力しているが、改善の余地があるようなので、業務の精選をさらに進めてほしい。 ・最小努力・最大効果の取組で心身の健康を大切にしたい。 ・不祥事を忘れず、より改善を進めてほしい。	B
			3: 前年度と比べて業務改善が進んだと感じている教員の割合が6割以上である。			
			2: 前年度と比べて業務改善が進んだと感じている教員の割合が4割以上である。			
			1: 前年度と比べて業務改善が進んだと感じている教員の割合が4割未満である。			
5 学校評価総括						
[学習指導] 主体的・対話的な活動を多く取り入れ、積極的な授業態度を育てることができた。教員が授業の目標やめあてを明確にしたことにより、生徒の授業内容の理解を高めることができた。 [進路指導] 面談や個別指導を充実させ、生徒一人ひとりのニーズに沿った進路指導を行った。介護福祉士国家試験合格に向けて各教科担当が協力して課外等を実施し、生徒の実力を伸ばした。 [生徒指導] 授業や実習を通して他者への思いやりについての理解を深めた。言葉遣いや礼節については、日頃の学校生活や地域カフェ等の実践を通してスキルを向上させることができた。 [いじめ防止] 定期的なアンケートや面談を通じて、いじめの未然防止、早期発見及び早期解決のための情報共有を行い、組織的な取組を充実させた。 [福祉] 施設実習において、介護現場での利用者に対する応用的技術を習得したり、見聞を広めたりすることができた。福祉体験講座でも、小学生に教えることにより、自らの学びを深める機会となった。 [業務改善] 教員同士が連携を図って業務を共有し、分掌間の協働体制は強化された。各教員が勤務時間を意識した働き方を心掛けているが、時間外在校等時間の削減には至っていない。						
6 次年度への改善策						
[学習指導] 専攻科生としての知識の習得と学力の向上を図る。実技系科目を苦手とする生徒に対して補講や個別指導を強化し、介護福祉の技術に自信が持てるような学習指導を行う。 [進路指導] 進路希望調査を定期的実施し、担任と情報共有を図り、進路決定に向けてサポートする。保護者に対して、進路指導の活動状況について積極的に情報発信をする。 [生徒指導] 次年度もTPOを意識した言葉遣いや礼節について指導を行う。教育相談活動においても、心身の健康維持のマネジメント能力を高めることができる生徒の育成に努める。 [いじめ防止] 将来、介護に携わる者としての意識を高め、「人権の尊重・個人の尊重」について個々の理解を深める。担任やSCの面談等により、日々変化する生徒の実情把握に努める。 [福祉] 生徒の習熟度に応じた個別指導と学んだことの振り返りを徹底し、知識の定着と実践的な技術の向上に努める。施設との連携をさらに深め、介護福祉のプロとしての意識を高める。 [業務改善] スクラップアンドビルドで、少人数でも最大効果を上げられるよう業務改善を行う。介護実習期間のノー残業ウィークを周知徹底し、教員の負担感の軽減とメンタルヘルスに努める。						